

<報道関係各位>

2020年9月1日  
ギリアド・サイエンシズ株式会社

当資料は、米国ギリアド・サイエンシズ社が、2020年9月1日（現地時間）に発表した英文プレスリリースを日本語に翻訳、一部編集したものです。正式な言語は英語であり、その内容ならびに解釈については英語が優先いたします。

## ギリアド・サイエンシズと Jounce Therapeutics 社 新規免疫療法プログラムに関する独占的ライセンス契約を発表

– ギリアドは抗CCR8抗体の開発と事業化に対し独占的権利を取得 –  
– ギリアドは 8,500 万ドルの契約前渡金を支払い、3,500 万ドルの株式投資を行う –

ギリアド・サイエンシズ（本社：米カリフォルニア州フォスターシティ、ナスダック：GILD、以下「ギリアド」）と、新規がん免疫治療薬と予測バイオマーカーの発見に特化した臨床段階の企業 Jounce Therapeutics, Inc.（ジョンズ・セラピューティクス、ナスダック：JNCE、以下「ジョンズ」）は本日、ジョンズの JTX-1811 プログラムに関する独占的ライセンス契約を締結したことを発表しました。

JTX-1811は、免疫抑制作用をもつ腫瘍浸潤制御性T細胞（T<sub>H</sub>17細胞）を選択的に枯渇させることを目的として設計したモノクローナル抗体です。JTX-1811の標的であるCCR8は、T<sub>H</sub>17細胞に多く発現しているケモカイン受容体です。JTX-1811がCCR8に結合すると、抗体依存性細胞傷害作用が強まることでT<sub>H</sub>17細胞の枯渇が進みます。この抗体製剤は、2021年の上半期の新薬治験許可申請（IND）の提出に向けて開発が進んでいます。

ギリアドの研究担当エグゼクティブ・バイスプレジデントのウィリアム・A・リー（William A. Lee, PhD）は、「取引の完了をもって、私たちのがん患者さんの治療の変革をもたらす可能性のあるがん免疫療法の開発パイプラインに JTX-1811が新たに加わることになり、たいへん嬉しく感じています。TX-1811は、ギリアドのその他のがん治療薬候補と相補的な働きをする開発品であり、固形がんと血液がんに対する新クラス治療薬となる可能性があります。」と述べています。

ジョンズ・セラピューティクスの最高経営責任者（CEO）兼社長であるリチャード・マレー（Richard Murray, PhD）は、「ギリアドからジョンズへ、特にJTX-1811へ投資いただいたことにより、私たちのトランスレーショナルサイエンスのプラットフォームと、新たな免疫オンコロジープログラムに向けた差別化可能で持続的なアプローチの価値が高まりました。私たちの研究は、免疫療法の恩恵を未だ受けていないがん患者さんに焦点を絞ったものです。JTX-1811が臨床の場に進む日を楽しみにしています。私たちのミッションは、適切な免疫療法を適切な患者集団にお届けし、有意義かつ長期間持続する恩恵をもたらすことにあり、私たちはこのミッションを胸に創薬と臨床開発に向けた研究を進めています。JTX-1811プログラムは、私たちの活動の典型的な一例です。」と述べています。

## 本契約について

連携契約の条件に基づき、ギリアドはジョンズに対して8,500万ドルの契約前渡金と3,500万ドルの株式投資を行います。また、臨床試験、申請や事業化に対するマイルストーン支払金として最大6億8,500万ドルを受け取る可能性があります。またジョンズは全世界での売上高に基づき、1桁台後半から10パーセント台半ばのロイヤリティを受ける権利を有します。

ジョンズはIDN取得までJTX-1811の開発を主導し、その後はギリアドがJTX-1811の開発を進める独占権を得ます。JTX-1811は世界のいずれの国でも承認されていません。本剤の有効性と安全性は確立されていません。

本取引は、2020年下半期に成立する見通しで、取引完了は米国ハート・スコット・ロディノ反トラスト改正法（Hart-Scott Rodino Antitrust Improvements Act）に基づく待機期間の満了などの慣習的な買収取引条件を満たすことが条件となります。

## ジョンズ・セラピューティクスについて

ジョンズ・セラピューティクス社（Jounce Therapeutics, Inc.）は、バイオマーカーを用いたアプローチを通じて、免疫系に腫瘍を攻撃させ患者さんに長期的な恩恵をもたらす治療法を開発する活動を通じて治療の革新を目指す臨床段階の免疫療法をもつ企業です。ジョンズは現在、開発段階にあるプログラムを4件有しています。VopratelimabはICOSに結合し活性化するモノクローナル抗体で、EMERGE第II相臨床試験で評価中です。またジョンズは、予測バイオマーカーとしてTIS<sup>vopra</sup>を用いて患者選択を行う第II相SELECT試験の開始を計画中です。JTX-4014はPD-1阻害剤で、SELCT試験で併用するほか、ジョンズの他のパイプライン品目との併用を目指しています。JTX-8064はLILRB2（ILT4）受容体拮抗剤で、免疫を抑制する腫瘍随伴マクロファージのリプログラミングを行い抗腫瘍作用をもたらせる可能性があります。JTX-8064の臨床での検討開始は2020年の見込みです。JTX-1811はCCR8を標的とするモノクローナル抗体で、腫瘍微小環境にある制御性T細胞の選択的枯渇をもたらす治療薬として設計されています。詳細については、<http://www.jouncetx.jp/>をご覧ください。

## ギリアド・サイエンシズについて

ギリアド・サイエンシズは、医療ニーズがまだ十分に満たされない分野において、革新的な治療を創出、開発、製品化するバイオ医薬品企業です。会社の使命は、生命を脅かす病を抱える世界中の患者さんのために医療を向上させることです。カリフォルニア州フォスターシティに本社を置き、世界35か国以上で事業を行っています。ギリアド・サイエンシズに関する詳細は、[www.gilead.com](http://www.gilead.com)をご覧ください。

## ジョンズの将来予想に関する記述

本プレスリリースは、1995年米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1811）で定義される「将来予測に関する記述」に該当し、両社が取引を適時に成立させるもしくは取引を成立させる能力、JTX-1811の開発、および本取引で期待されるメリットなどのいくつかのリスク、不確定要素、およびその他の要因を含む場合があります。将来予想に関する記述は一定のリスクや不確実性の影響を受け、実際の結果が大きく異なる場合があります。このような相違につながる原因または要因には、取引に関して当局の承認を得る能力、医薬品の開発と事業化に伴う本質的な不確定要素などがあります。ジョンズが有するリスクや不確定要素については、米国証券取引委員会に提出している、最新の年次報告（フォーム10-K）で詳細に示すとともに、その後に米国証券取引委員会に提出し

た資料において考えられるリスク、不確定要素およびその他の重要な要因について明記しています。将来予想は、本プレスリリースの発表日時点の内容であり、将来予想に関する記述に全面的に依拠することは控えてください。ジョンスは、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負いません。

### **ギリアドの将来予想に関する記述**

本プレスリリースは、1995年米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）で定義される「将来予測に関する記述」に該当し、両社が取引を適時に成立させるもしくは取引を成立させる能力、両社が予測通りの時期にマイルストーンを達成する能力、今回の両社の提携で期待される恩恵が実現に至らないリスクなどのいくつかのリスク、不確定要素、およびその他の要因を含む場合があります。歴史的事実以外の全ての記述は、将来予想に関する記述とみなしてください。これらのリスクや不確定要素、その他の要因により、実際の結果が「将来予想に関する記述」と著しく異なったものとなる可能性があります。将来予想に関する記述のみに依拠することはお控えください。これらのリスクやその他のリスクについては、米国証券取引委員会に提出している、2020年6月30日までの四半期のギリアド社四半期報告書（フォーム10-Q）で詳細に説明しています。将来予想に関する記述はすべて、ギリアドが現在入手できる情報に基づいており、ギリアドは将来予想に関する記述を更新する義務を負いません。

###